



「地域で生きる地域工務店」

住宅建設業とひとくちに言っても、ハウスメーカー、パワービルダー、そして地域工務店と多様な業態があります。私たち相羽建設も含めて多くの地域工務店は土着しています。地域の価値向上なくして生きることが出来ません。だからこそ私たち相羽建設は、地域と寄り添い、地域とつながり、地域と共に生きていきたいと考えています。

相羽建設のポリシー

■理念

「つながる人すべての暮らしを豊かにする」

■ビジョン

「仲間とわくわく、やっぱり AIBA は面白い!」

■「つむじ」の由来

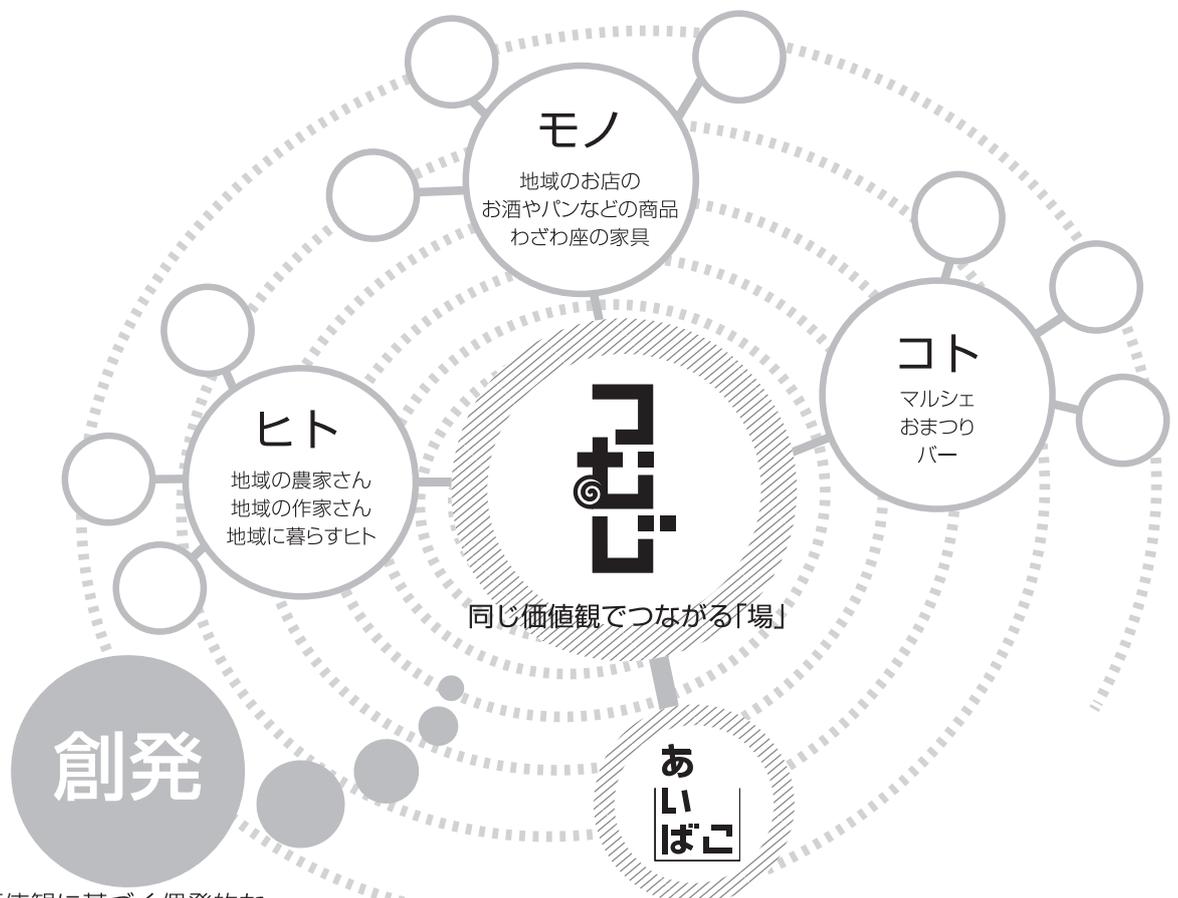
「つむじ」の由来は、近くの交差点「久米川辻」にちなんで名付けました。

辻とは人や物が行き交う交差点を指します。またつむじが音変化して辻となったということもあり、「つむじ」と命名しました。文字通り「つむじ」がヒトやモノ、コトが行き交い、集まる場所となり、頭の旋毛のように渦を起こし、地域を巻き込むような存在でありたいと願っています。

■まちに開く 住み開く

都市計画による建物や用途への区分、プライバシーの過度な意識や、所有意識によって、まちや郊外は、まちや人に背を向けることが多くなっているように感じます。しかし、まちや人の豊かさは本来つながり、つなげることにあるのではないのでしょうか。

「つむじ」はまちに開き、人に開く、そのことで生まれる新たな価値の創生を考えています。具体的には手しごとや衣食住といったことについて、つながる、つなげるを表現していきます。例えば地域の農家さんとのマルシェや、地域の作家さんとのイベント、カフェや手しごとのモノが見て、触って、購入できるような場としても活用していきたいと思っています。



価値観に基づく偶発的な
つながりから生まれる新たな価値

i-works 2015

「性能の先の心地よさを考える」

3.5間角をベースに、標準化されたユニットを駆使し木造ドミノの構造(スケルトン&インフィル)を取り入れ、プランの可変性を備えた提案型住宅です。

3.5間角、延床面積24.5坪+ロフトの小さな住まい。今回は下屋(和室)をオプションとして付加し、延床面積28坪としています。Ua値は実に0.44。ハニカムブラインドまたは断熱襖を使用することで0.40。気密性能(C値)は2.0。さらにOMソーラーを搭載し、冬、屋根で暖めた空気で床暖房、夏はお風呂のお湯採りと夜は屋根の放射冷却を利用して涼風を採り入れます。

性能と意匠の両立を視野に、「性能の先の心地よさ」に挑戦してみました。地域性豊かな、日本的なエコハウスを考えるスタートになったと思います。



性能の先の心地よさ



i-works

2020年の省エネ基準義務化に備えて、よりエネルギー負荷の少ない高気密・高断熱性能を持ちながらも、内と外のつながりを大切に開口部まわりのデザインが特徴のi-works2015。「いい家とは、決して性能だけではない、その先にある家本来の住み心地こそが大切である」と伊礼智さん。長年住み継いでいく為の確かな性能と、飽きのこないデザインこそが、家本来が持つべき姿だと考えます。

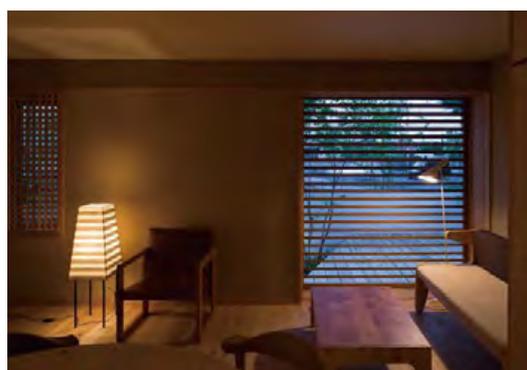
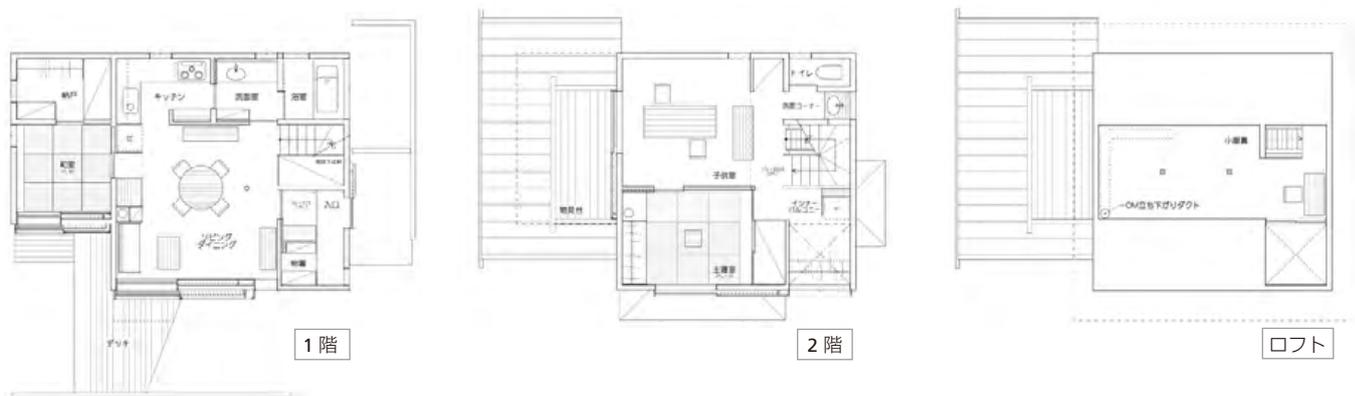
性能 × 標準化

i-worksは、よく「プレタポルテの家」と称されます。「プレタポルテ」とはアパレル業界で「質の高い既制服」の意味。誰かのためのフルオーダー住宅「オートクチュール」ではなく、建築を標準化することにより、オートクチュールの上質さを纏った既制服を手が届きやすい価格で提供します。

信頼できる工務店、建材メーカーとコラボし、総合的にクオリティの高い、確かな住まいを提案します。



計画



DATA

場所：東京都東村山市久米川町 4-34-6 つむじ
 規模：93.36 平米 (28.19 坪)
 竣工：2015.2.1
 仕上：外壁（スーパー白洲そとん壁 W）
 内壁（薩摩中霧島壁）
 構造（紀州杉・松）
 開口部（木製、高性能樹脂）
 玄関ドア（国産桧引戸）
 浴室（オリジナルハーフユニットバス・さわら）
 設計：伊礼智設計室
 施工：相羽建設

活用

「つむじ宿 2015」

東村山市の久米川辻にある「つむじ」が「手しごと」と「食」をテーマに地域の人と文化が出会い、豊かな交流が生まれる場所となることを願って「つむじ宿」と銘打ったイベントも始まりましたが、i-works2015では、その名の通り、実際に「宿」として宿泊体験をできるように致しました。性能の先にある心地よさを、是非、肌で感じてみてください。



3階建 ドミノ

three story Domino

「地域とつながる場」

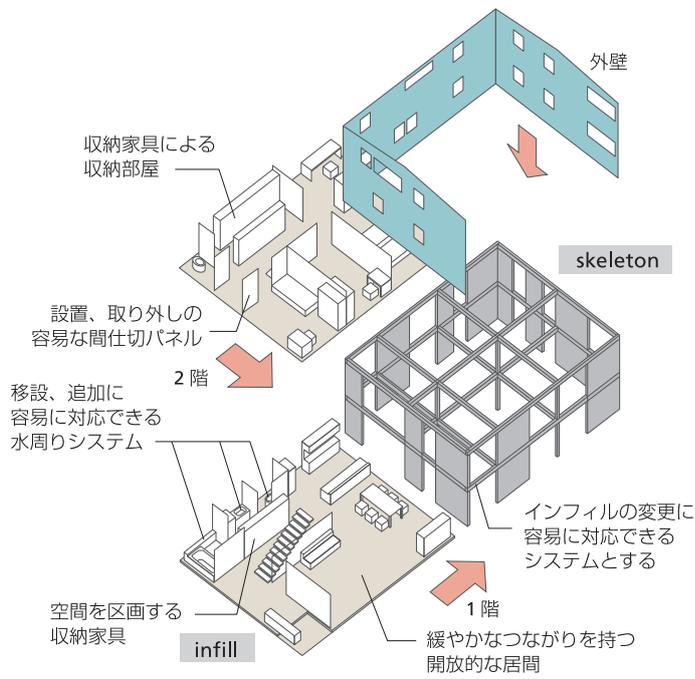
木造ドミノ住宅は、住み手が自分たちの暮らしに合わせてカスタマイズできる家。家をシンプルな形にし、構造を整理することで、がらんとした大きな空間をつくることができます。そのがらんとした空間に、ライフスタイルに合わせた家具や仕切りを付け足し、自分たちだけの住まいをつくることができます。

つむじでは、日本初の3階建木造ドミノ住宅に挑戦しました。2～3階を住宅、1階を住宅+αの空間として想定しながら、「大工の手」の家具やキッチンを配置し、空間構成を行っています。1階はインナーガレージや店舗、仕事場、趣味部屋など、住む人が暮らしをより楽しむための場であり、住まいを地域に開いていく場にもなります。

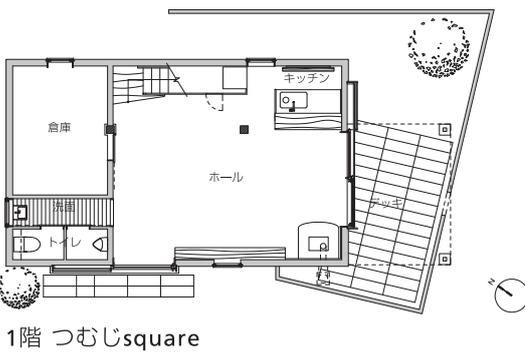
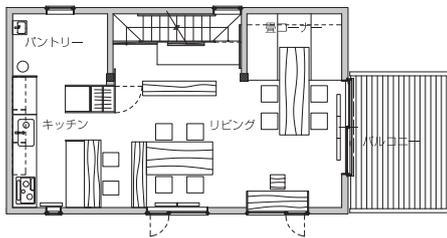
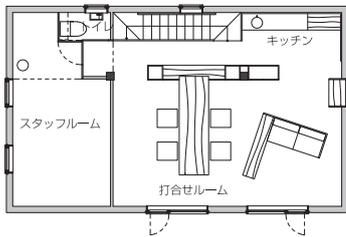
モデルハウスとしては、1階の「つむじ square」や2階の「つむじ cafe」で「地域」「手仕事」「食」をキーワードとした様々なイベントを行い、地域の人が集まり、つながる場をつくっていきます。



構造



計画

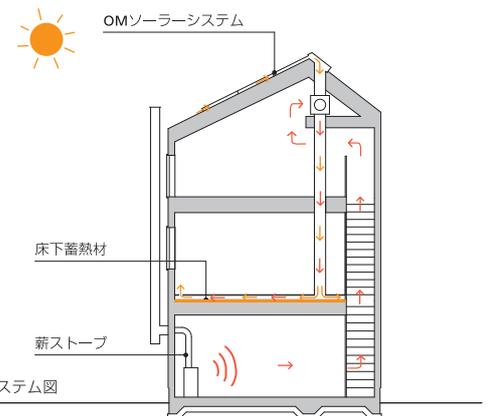


DATA

場所：東京都東村山市久米川町 4-34-6 つむじ
 規模：延床 149.04 平米 (45.00 坪)
 構造：木造ドミノ構造 竣工：2016.1.30
 スケルトン設計：相羽建設 中村健一郎
 インフィル設計：小泉誠+Koizumi Studio
 構造設計：山辺構造設計事務所
 施工：相羽建設

活用

1 階の土間空間では地域のものを販売するマルシェ、地域の作家による展示会やワークショップ。2 階ではキッチン設備を利用してカフェや料理教室を行い、地域の人たちへ開かれた、より身近に感じてもらえる場所をつくっていきます。

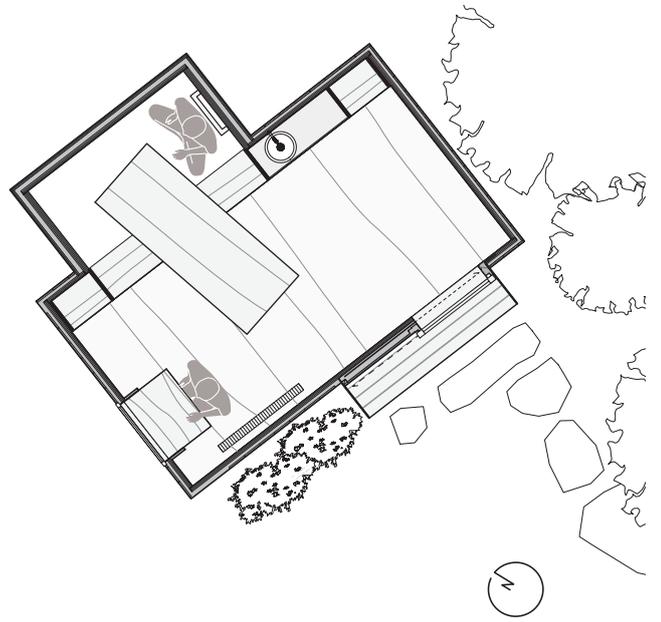


舎庫

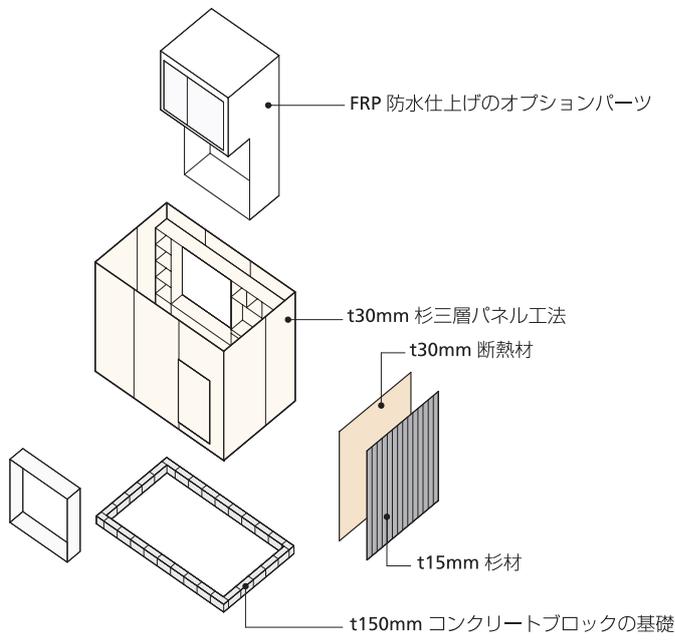
Shako

「駐車場の車を買いませんか？」

舎庫は駐車場に建てられるサイズの小さな居場所。一人の場所として、仕事場として、そしてお店など町にひらく「住み開き」の場所としてなど、多様な使い方を提案していきます。今回の TYPE -1 は、今後の「舎庫プロジェクト」の原寸試作でもあり、家具の中に住むような仕掛けが盛り沢山。実際の車庫ほどの空間ですが、内雨戸がデスク、背もたれが梯子、シンプルな温熱計画、本棚が部屋、外壁が FRP、杉パネルの構造、天井穴から光……と様々な仕掛けと居場所がつくってあり、子どもの頃につくった秘密基地にしているようなワクワクする気持ちになれます。



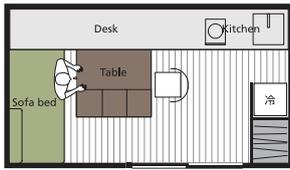
構造



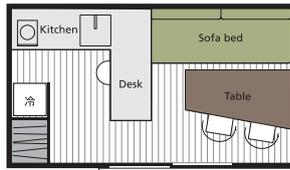
住

核家族化での片親の居場所、生き生きと暮らしたい奥様の居場所、しいたげられている旦那の居場所、結婚しない子どもの居場所。

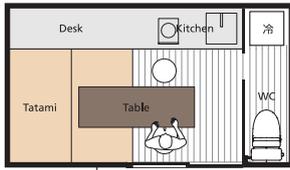
台所+デスク+テーブル+ソファベッド



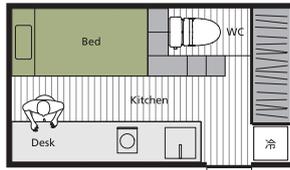
台所+デスク+テーブル+ソファベッド



台所+畳+デスク+テーブル+トイレ



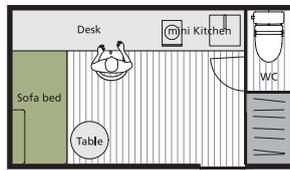
台所+デスク+テーブル+ベッド+トイレ



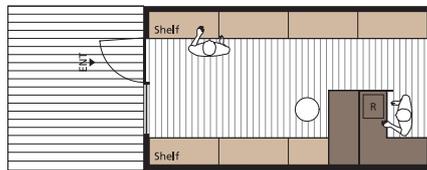
働 店

主生活と程よい距離を置ける仕事部屋。仕事と生活の関係をつくり、安心もつくるアトリエ、書斎、読書室、趣味部屋。

デスク+ソファベッド+トイレ
+ミニキッチン



棚を中心とした店
ギャラリー、酒屋、パン屋、荒物店、菓子屋



DATA

場所：東京都東村山市久米川町 4-34-6 つむじ

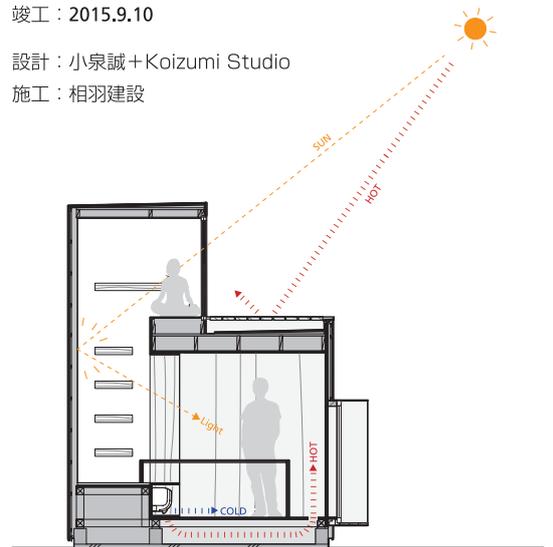
規模：9.87 平米 (2.98 坪)

構造：杉パネル工法

竣工：2015.9.10

設計：小泉誠+Koizumi Studio

施工：相羽建設



巣箱

Nest box

「場を記憶するメディア」

巣箱は「つむじ」の施設サインです。町並みを汚す無秩序な看板が多い中、地域活動の拠点となるこの場所で「適切な看板とは？」を皆で模索し、この場所に気づいてもらうためのランドマークとして「気になる巣箱」を計画しました。巣箱は定員2名の家具空間。傾斜した床と大きな背もたれ板でラウンジチェアになり、窓枠がテーブルにもなる建築自体が身体を支える家具になっています。町並みに心地良い違和感を醸し出し、「つむじ」の活動とともに地域の気持ちが宿り、この場を記憶するメディアとなる事を期待しています。

DATA

場所：東京都東村山市久米川町 4-34-6 つむじ

規模：1.4 平米（0.4 坪）

構造：台形工法

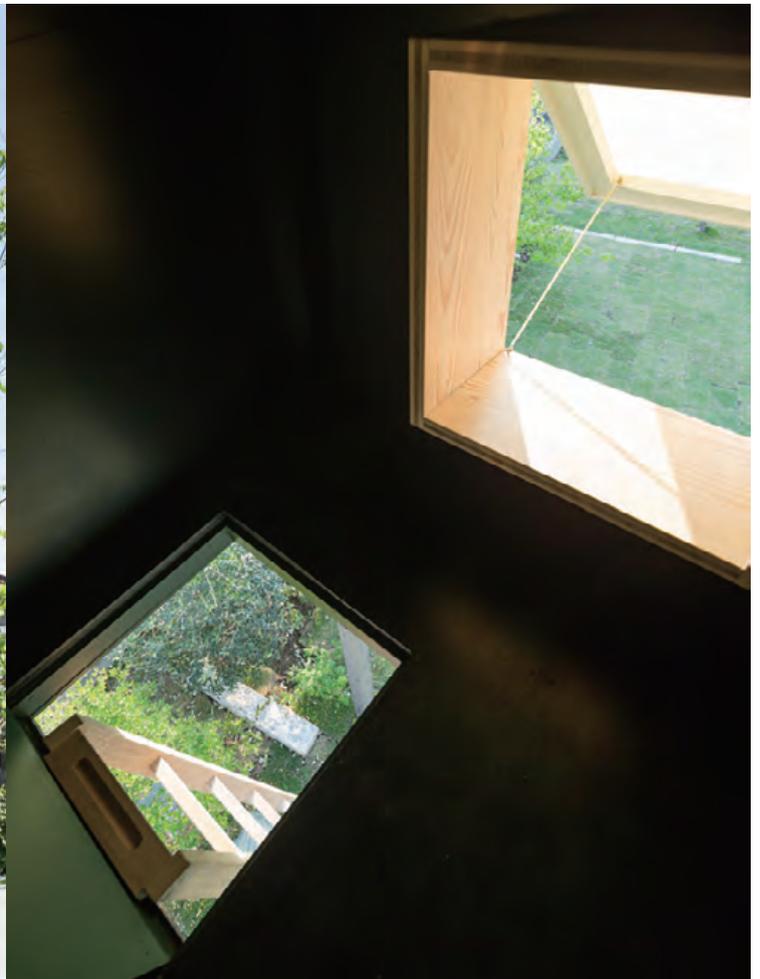
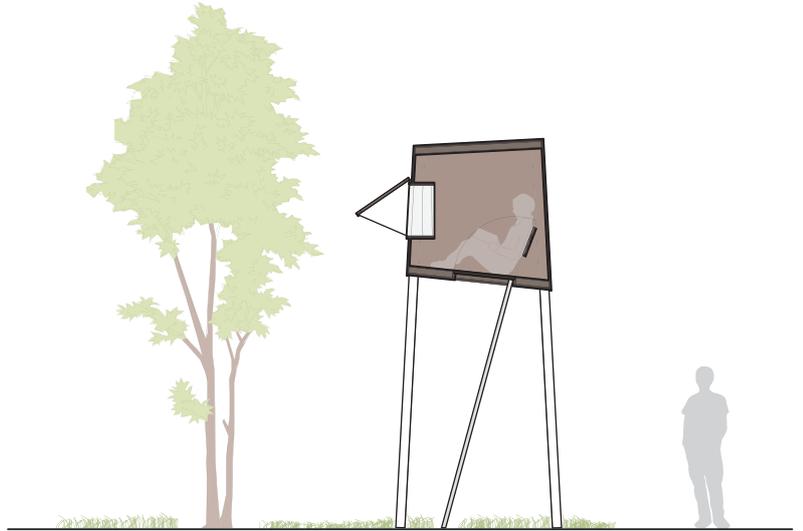
仕上：外壁／FRP 仕上げ

内部床壁天井／構造用合板＋AEP

竣工：2016.3.15

設計：小泉誠＋Koizumi Studio

施工：相羽建設



造園デザイン

Landscape



「つむじの庭」

春の盛り、4枚の総苞を十字に広げるハナミズキ。「つむじ」のシンボルとしてエントランスを彩り、その先「ドミノ」の前には地域のサロンとなるような屋外の広間が広がっています。ハナミズキと同じ時期に咲くサトザクラ「関山」は、花びらを塩漬けにして桜湯に用いる品種。ここは「食」をひとつのテーマにした庭。続いて実の恵みを頂けるジューンベリー、ヤマボウシ、足元に目を向ければブルーベリーやハーブも。雑木の中を進むと、水辺のような清々しい風が通る「i-works」の庭、日本のハーブと呼びたい野草や赤い実をつける木にこだわった「舎庫」の庭。つむじの中は住宅の庭にお薦めする150種を越える植栽がひしめく小さな街。四季折々の風景を楽しめる散策の庭がお迎えます。

- ① i-works2015
- ② 舎庫（しゃこ）
- ③ 3階建て木造ドミノ住宅
- ④ 造園デザイン（敷地全体）
- ⑤ 巣箱



ヤマブキ
シロヤマブキ
タマアジサイ
アシタバ
ヤブカンゾウ
ユキノシタ
ミツバ
ミョウガ
ニラ
ハンゲショウ
...

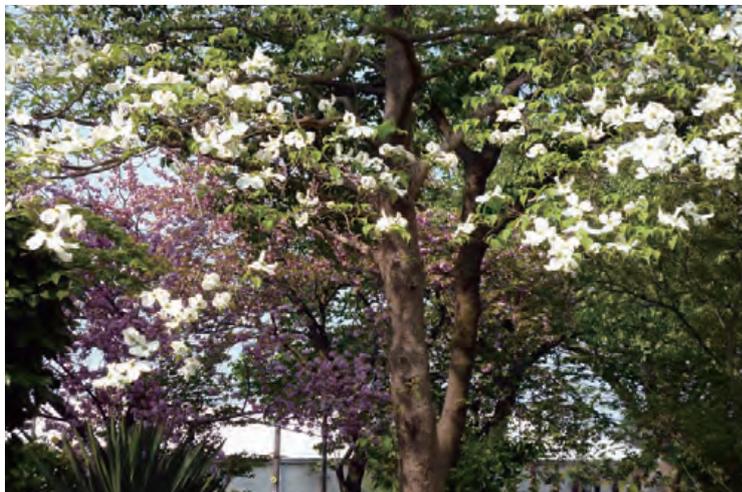
センリョウ
ワイルドストロベリー
ヒューケラ
カレックス
...

マンリョウ
ナワシログミ
ユズラウメ
ラズベリー
ハラン
コグマザサ
ヒメツルソバ
...

ナルベノローゼ
アブラチャン
ソヨゴ
アオハダ
リョウウ
ナンテン（赤実）
フィリアオキ

タマリユ
シマカンスゲ
シダ
ヤマモミジ
シロモジ
ハヤブサ
ヒイラギナンテン
ロウバイ

石は土の上に置くだけ、草木は、ここにきていただくだけ



自然の素材だけを使って、石は土の上に置くだけ、草木には、ここにきていただくだけ。そんな庭づくりをしたいと思います。「i-works」の庭と「舎庫」の庭では、塀やデッキの建築的な要素を除いた屋外スペースは、コンクリートやモルタル、人工の素材は持ち込まずに、土を盛って山をつくり、またその土を削って石を敷き、剥き出しの大地の恩恵を大切に風景をつくりました。きっと石のテラスの目地や栗石の隙間から、様々な雑草がでてくるとは思いますが、そこには食べられる草や、思いもなかった綺麗な景色をつくってくれる草花もあるはずです。



「食」を提案する庭

実の収穫、新芽のおひたし、葉っぱの天ぷら、香草、防腐作用のある葉、爪楊枝になる枝——。植物を目と舌で楽しみ、「食」を感じることは、身近な環境を想う大切な経験です。



「石」が持つ豊かさ

日毎、季節毎に変容していく植物と、遅々とした変容を遂げていく石がつくり出す、そこに行けばいつでも出会えて、でも変わっていく風景。その「安らぎ」と「ときめき」こそが、庭の魅力。



地域の人、つくり手同志。みんなで作った庭。

例えば、変わらない石のテラスと動かせない大きなシンボルツリー。そこに気軽に模様替えができる要素があると、庭の楽しみは格段に増えると思います。季節の草花の植え替えはもちろん、低木で、数年に一度動かした方が元気になる木もあります。土を動かしたり、庭の砂利を並べ替えたり、小粋な小石を増やしたり。「つむじ」の庭は地域の皆さんの手もお借りしてつくってきました。造成の残土を用いた丘づくりは、屋外の「家具」をつくる行為でもあります。そして、これからも庭づくりの楽しみを味わえる様々なイベントを企画し、皆さんと味わい、愉しんでいきたいと考えています。



Special feature

地域の皆さん、(株)秋津園芸、Koizumi studio、相羽建設(株)



小林賢二氏の器も「つむじ」で展示販売

庭の草木をヒントに生まれた器や、身近にある自然を感じ愉しむキッチンに、との想いから作り出された草木を入れる「道草の器」。

DATA

場所：東京都東村山市久米川町 4-34-6 つむじ

規模：565.19 平米 (170.62 坪)

竣工：2016.3.15

造園計画：小林賢二

住みびらくから始める

ベッドタウン（寝に帰るまち）とも表現される、私たちの暮らす「郊外」。経済成長期には昼は都心で働き、夜は郊外のマイホームに帰って寝る。そんなライフスタイルが多かったのかもしれない。

しかし現在の郊外はもっと多様になっています。暮らしを楽しむ人。自己実現や自己表現をする人。つながりを持ち、新たなコミュニティや人間関係を構築してイキイキと生活する人や家族を多く目にするようになりました。

私たちは更に郊外が魅力的になる提案として「住みびらく」ことを提案したいと考えました。まちに背を向けるのではなく、まちに住まいや暮らしを開くことで、ヒトとモノとコトがつながり、重なり合い、結果として新たなつながりや楽しさ、豊かさがあると信じたのです。

郊外のひとつの特徴として戸建ての住宅比率が高いことが挙げられます。また、それらの戸建て住宅には駐車スペースが設けられている場合が多くあります。

駐車スペースは道路に面しており、まちと家をつなぐ媒介的役割を果たすことが出来るのではないのでしょうか。具体的には、郊外に昔から見られる風景である「無人販売所」であったり、お祭りの日に私たちをワクワクさせてくれた「屋台」であったり、多様な用途が考えられる「小屋や離れ」のような小さな小さな

建物を、媒介装置として駐車スペースに設置することを提案したいと考えました。

あなたの暮らす街なかに、まちに建つ住宅の駐車スペースに、そこに暮らす人が多様な用途で無人販売所や屋台、小屋や離れを利用して、お店をひらいたり、メッセージを発信している姿を想像したらどうでしょう？ なんだかちょっと楽しそうで、ワクワクしてきませんか？

ぜひあなたも当事者になって、まちとコミュニケーションできると、郊外はもっともっと素敵になるのではないのでしょうか。



小さな居場所
「倉庫」



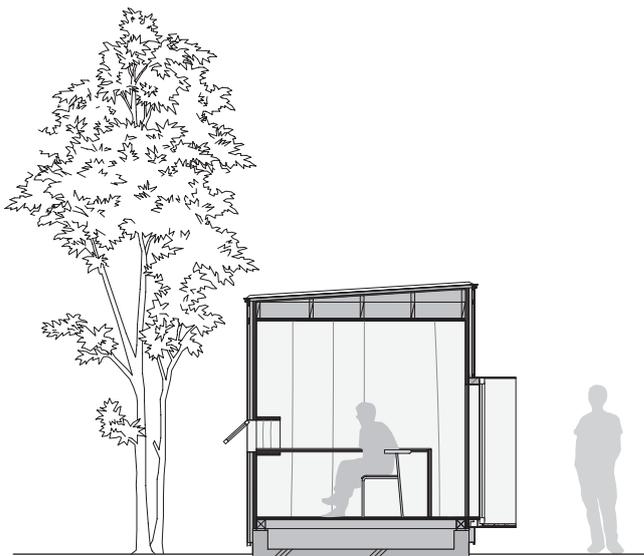
「無人販売所」 写真／寺島由里佳 © つむじ

住みびらきのための「小さな建築」

設計：小泉誠 + Koizumi Studio
製作：相羽建設 十太工

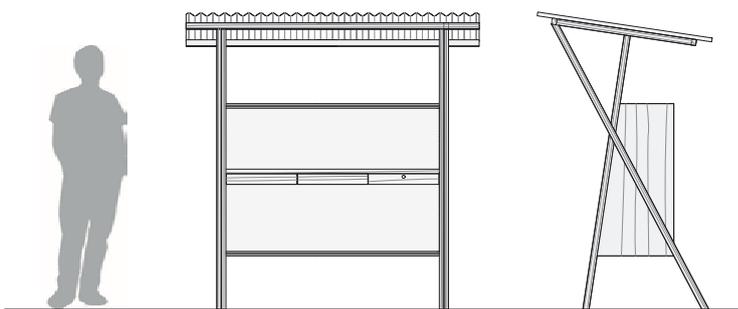
舎庫

駐車場に建てられるサイズの小さな居場所「舎庫」は家具の中に住むような仕掛けが盛り沢山。子どもの頃につくった秘密基地にのようなワクワクした気持ちになれます。



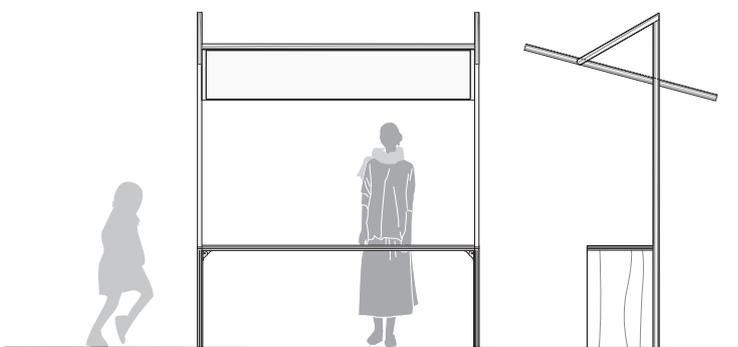
無人販売所

郊外の日常風景の1つである無人販売所。農作物や植物、手づくりの器や雑貨、小物、お菓子が並んで、地域に暮らす人の交流の場となることを願ってデザインされました。



屋台

屋台は店主とお客がテーブル越しに顔を合わせられる一番小さなお店のかたち。ハンドドリップの珈琲屋さんやパン屋さん、紙芝居のおじさん。あなたなら何をしますか？



「小さな建築からはじまること」

舎庫や無人販売所、屋台は、家よりもさらに小さな建築でありながら、たくさんの可能性を秘めた「つながり方のデザイン」と言えるかもしれません。それがあることによって何かはじまったり、人と人との交流が生まれる楽しさがあります。他にも移動式の屋台や、イベントの場になる展示小屋など、小さな建築のかたちを探求しています。

展開



「屋台」



「無人販売所」 写真／寺島由里佳 © つむじ



「展示小屋」